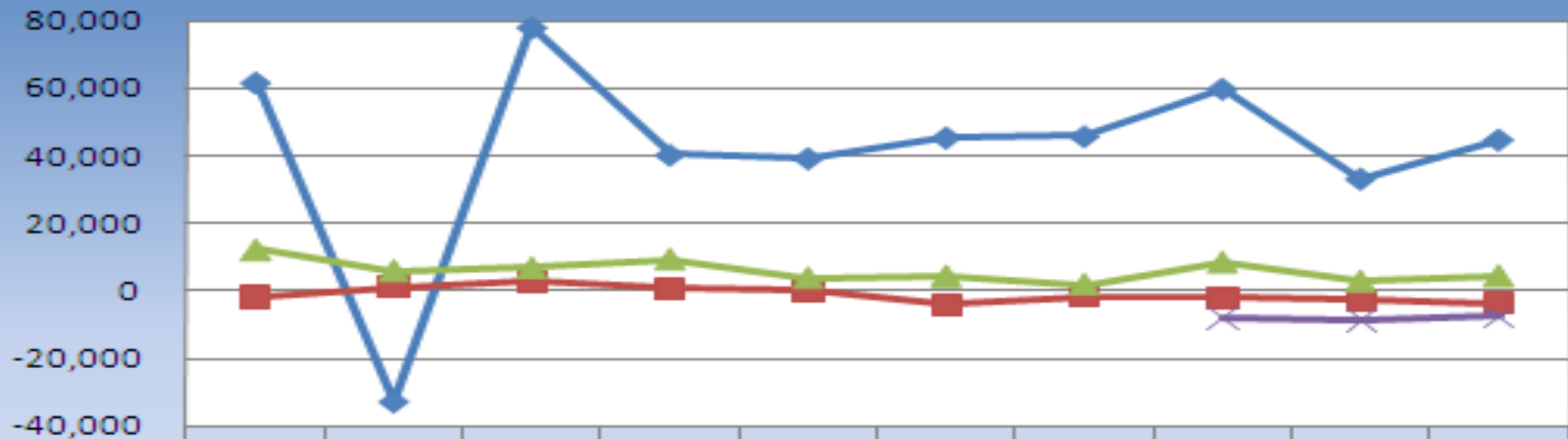


# 6. 資金余剰額

(帰属収入－消費支出＋減価償却費)

帰属収支差額に、現金が流出するわけではない減価償却費を加えると、1年間の資金余剰が算出される。帰属収支と同様の傾向を示している。大学の場合は2007年度に7億8062万円、2009年度に6億1717万円となっている(2008年度を除き、6年間、常に3億9000万円以上)。

2000～2009年度 資金余剰額の推移 (単位:万円)



	2009年度	2008年度	2007年度	2006年度	2005年度	2004年度	2003年度	2002年度	2001年度	2000年度
大学	61,717	-32,764	78,062	40,322	39,271	45,448	45,819	59,887	33,242	44,804
高等	-1,777	1,156	2,811	742	292	-4,181	-1,665	-1,954	-2,739	-3,558
中等	12,251	6,013	6,864	9,477	3,838	4,349	1,916	8,562	2,867	4,477
学校法人								-8,064	-8,657	-7,517

# 結 論

大学の帰属収支は極めて安定しており、中等部も同様。高等部にマイナスが発生する年度もあるが、大学が十分にカバーしている状態である。

特に大学は、すでに2億7000万以上の賃金をカットしたうえ、2009年度に6億1717万円の資金余剰を出している。

借入金利息を着実に減らしている状況を考慮するならば、これ以上の賃金カットには正当性が何ら見受けられないといえよう。